

槍ヶ岳の開山を実現

播隆 (ばんりゅう)

越中国上新川郡内村生まれ。
(富山県富山市)

<播隆が活躍した時代> 1786(天明6)年~1840(天保11)年 享年55歳



1786	1804	1823	1825	1826	1828	1833	1834	1835	1840	
一向宗の道場中村家の次男として誕生。	隆と改める。 見仏上人に師事念仏行者となる。名を岩仏とし、後に播隆と改める。	笠ヶ岳(岐阜県)の登山道を整備し、再興する。	伊吹山(滋賀県)で修行。 伊吹山禅定する。	松本の玄向寺の立禅和尚を訪ねる。山案内人の中田又重郎を紹介される。 登頂する。	第2回目登山、槍ヶ岳頂上に三尊の仏像を安置する。 槍ヶ岳開山。	槍ヶ岳、第3回目登山。	第4回目登山、三尊に釈迦を加え四尊とし槍ヶ岳命神とする。山頂に藁(わら)で作った「善の綱」をかける。 槍ヶ岳、第3回目登山。	積雪期に第5回目登山を決行。又重郎と48夜の勤行を果たし下山する。	闘病中に中田又重郎、信者らが槍ヶ岳頂上から頂上直下に鉄鎖をかける。	病気のため、亡くなる。



播隆上人(松本駅前広場) 上條俊介作(1971年)



播隆上人(朝日村美術館) 上條俊介作(1979年)

槍ヶ岳山荘では、毎年、9月第1土曜日に「播隆祭」が行われている。

播隆は、生涯をかけて登拝信仰を確立した。(伊吹山禅定、笠ヶ岳再興、槍ヶ岳開山、穂高岳登拝)

念仏は浄土門易行であるが、山を登るといふ行為をとおして、自力という努力によって山頂に立つ達成感、喜びを体感することができる。

笠ヶ岳山頂で拝した御来迎の方向に槍ヶ岳を望んだ播隆は、ぜひ槍ヶ岳を開山しようと決心し、槍ヶ岳開山を実現するに至った。

なかたまたじゅうろう ~山案内人 中田又重郎との出会い~

「わたしが、初めて槍ヶ岳を見たのは笠ヶ岳の頂上からでした。夕陽に染まりあかね色に包まれた荘厳な姿でした。それは、天をつく槍であり、天上にそびえる塔でした。わたしは身動きもできないで立ち尽くしました。今まで探し求めていた霊地に出会ったのです。この人里離れた清らかな岩峰こそ、み仏のおいでになられる所なのだ。わたしは、現世の浄土はあの岩峰にある。槍ヶ岳を開山しみ仏を納めて、多くの人に参拝していただく。それこそ極楽浄土へつながる近道だと思います。これが私の大願でございます。・・・」播隆の話は続いていた。

又重(又重郎)はじっと聞いていて、「上人様の槍ヶ岳へ懸ける思いは、よくわかりました。案内をお引き受けしましょう。浄土を開かれるという大願を、ぜひ実らせてください。」

—『善の綱』より—

三郷小倉の飛州新道開発に尽力した人物、中田又重郎との出会いが槍ヶ岳開山へと繋がっていく。

現在では、槍ヶ岳開山により、多く人々が、登拝できるようになった。

参考文献・『善の綱』三郷村教育委員会

- 『槍ヶ岳開山』新田次郎 文藝春秋
- 『槍ヶ岳開山播隆』穂苅三寿雄 大修館書店
- 『信州むかし語り②山と民の話』はまみつを しなのき書店
- 『安曇野市ゆかりの先人たち』安曇野市HP

- 『播隆入門』黒野こうき まつお出版
- 『日本百名山』深田久弥 朝日新聞社
- 『燃える山脈』穂高健一 山と溪谷社